こうて化るえ大し通行っ舞が麓とと、を゜る切、し動たわ、の 

心をる公うたを自つっが岳暮ら 情大この内こる災るじも噴す新 育にを情容とた害ころ身火主燃 てし通のでをめにと をに人岳(1) るよし変あ考に対をの守見公の

の子

ととでのうさを生のを牛すで 気内に手き悲知を主祖本へ がす でる力持容つ紙で劇る失人父資か き心強ちでいでいに過っ公母料<sub>校</sub> る情くをあて知く負程でがのは高 を生考る考り祖けでい、近、学 育きえ。え、母ず、っ口く中年 て抜る主る命の力口た蹄に山 るここ人との決強蹄理疫暮間(1)



がす迫主様でに干活たて元噴 の灰干 でるる人々あしし用主活の火本へ る土心てたる特肉山とにけ燃 こを情いめ内産の灰考かた岳(7) と愛にくに容品灰のえし地の



るこじる人目がし容を高でがえ口 シルこム(振り で有い日 、た蹄本へが となとのを苦家あ言目本和畜疫資質な すいで行達難族ス宝標 たった すいで行達難族る実標一牛産の料るで、動成をに、行ををの農発は るで、動成をに。行ををの農発は高いの努何やし乗励仲し掲と全家生、学 ぺんとっ 情力事心てりま間てげる国のを孫 をしに情い越さとい、 と審主乗の 育てもにくえれ協くそい査人り死<sub>②</sub> ていく迫主 `な力内れう会公越や`



つ通程疫い気べさけう牛て恵産 といしでをう持てにがつを育子農本 がてての乗内ちの改えら殺てが家資学で深、主り容を生めのい処て、で料生 疫 を きく生人越で育命てな経分い口あは3 り 越 え る考命公えあんを気い験でた蹄る えののてるで尊付生か失す疫中自 さ尊心い。い重き命らうべに学宅 せさ情く口くす、の、とてよ生が るにを過蹄とるす尊かいのつの畜

資をを 容を主達にのなみる好ンの 料感通主でと人の誘こい、かきザ地本へ ここでは、いっぱいでは、いっぱいでは、 とじし人あり公やっと。学もなが域資学なるて公るもはさたを 習し鶏発で料でいる。 では、いった等れば生息は、 もはさたを 習し鶏発で料で ど少しり心友等れが生鳥は、学 の てと友心 すしさす配達にな病すイ いが達情 とずにるしが身い気る いつふ ° `主が ' に ° ン フ主 るでのの いつふ う元れ 遊人人とか ストウス カラ 、友び公ら悩か大工公

遊人入とか ¬ル人(3)



きよ変

て生多をにたの九うりのう主豚営 料考きく通触・牛万内に尊殺人をむ本へ めてや情葉つん十いが命伴た子を



つ通のでめとや絆の気に主活噴 とてし変あてのるの当遺働人を火本へ がす考て化る考大心大たうく公送に資学でるえ、を 。え切、切り高父がるよ料校さい、相感主るさ親さに校や、こっは中 つは中て、学 相感主るさ親さに校や 手じ人とに切、し生お し生お人とて る情親手じ人とに切 を切のる公いつに人 の年々に避新 育に身このういすを人姿寄のな難燃 しにと心内てる思とをりたつ所岳 よなを情容改こいの目をめた生の

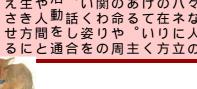


んもえだけ

の本つ

つししっ読中囲人と生ち励り疫に たみでの公いき直ますの通本 といて がての命り取成人がう方りしる影高となって深在のすっ長々、内を、なが響高料生で深在のすったしと家容見自ど、で校は、る者方さの名でつかな様落生、 る考方さ りての畜でつ分を様落生 考りで活っていまでファックを え生やま、い関のあけのバタちが農 さき人動話くわ命るて在ネな込 `業せ方間をし姿りや °いりに人ん口高 るにと通合をの周主く方立のだ蹄校

が践め公奉の通のう義てへの 1 の新で意よ共仕意し心内な ` の助ア意燃本 🧉



業高校生奮

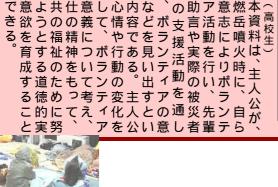
て化るえの人にきらけ緒を麓、を『スカ間つる火るに心の る力間つる火るに心の本 を が そ るが同りるで、これではの本へ中 め自感主とにのいます。 かれます。 思と心内 改えをリ はな と敬を情容めた聞うけ祖も市祖燃 がの通のでて自きマず父ちで父岳で念し変あ考然、こ生かか一母の で念し変あ考然 生かか一母の



とのせの情と日処家状尽の口生加活 、友のを々分で況く大蹄徒し動本で でさ励情変知をさ飼にす会疫がての資学 きをまに化る過れっあこにの主い練料生 る実しつを。ごるてると向影人る習は2 。感合い通主しこい中がけ響公中に、 感合い通主しこい中がけ響公中に さえてし人てとる `でてでで三熱 でてでで三熱毎 せる考て公いで牛友き最 `あの心日る友え `のる辛を達な善最る女にの こ達さ真心こい殺がいを後



るえ奉で好なはこ域が心い人 ない、 本資料は、「人では生きている。 身近な事になる。 は上とでは生きている。 もしたないうことになる。 は生きている。 はたいる。 はたい。 はたい。 はたいる。 はたいる。 はたい。 はたいる。 はたい。 はたいる。 はたいる。 はたいる。 はたいる。 はたい。 がい う葉でにを性主にい人 内がい<sup>・</sup>見が人反けは 例 で て で、容大け人た地公発な き考



が意発こ人うつ共り地でに配家 で識展と物内い感を域 `学す畜本? きをにをの容で考しも支域生大の容である。 の容で考して支域生大ので考した。 のおし情あえ自友えを持たいない。 のおしたスペースである。 とるのるのいにに誇 `中も心で





父の とに員とをたいい父疑す地走フ生 が対とを改ちうを親問る域すルし本へ が対しをはらりを続向る場がルロギャ ですし通めの内知のを必のるエた資学 きるてして住容り地抱要た父ン高料生 愛のて深むで `域くがめ親ザ病は く地あ考に主あににの原 を覚地考域るえ対人るそ対対性地(8) 育や域えの。直す公のこし応鳥域 む郷のるこ自するがかまてにイで `奔ン発



## 共に生きるとい うこ